

No Nukes

2022.8.5 No31

放射能被害から子どもたちを守ろう！ 自然エネルギーへの転換を！  
さよなら原発いばらきネットワーク NEWS  
みんなの力で東海第2原発の再稼働はやめさせよう！

多くのコロナ感染を出しながら進む東海第二再稼働工事 今すぐストップ!!

【STOP!!東海第二原発の再稼働いばらき大集会】のご案内

- と き 8月27日(土)PM1:30~
- ところ 駿優教育会館8階音楽ホール
- 参加費無料

第3回目となる、東海第二原発再稼働 STOP いばらき大集会のご案内です。コロナ禍のため、2019年から集会が開催できておりませんでした。今年は感染対策に留意して開催することとしました。本ニュースにチラシを同封しておりますのでご参照ください。

内容は、これまでの集会を踏襲し、福島の方からの訴え、賛同人のみなさんの訴えのほか、連帯のご挨拶として、鎌田慧さんや海渡雄一弁護士からお話をいただく予定です。

コロナ感染予防のため、マスク着用にてご来場ください。発熱等風邪症状があるときは、参加をお控えいただけますようお願い申し上げます。会場入口でも体温のチェックをさせていただきます。

【デモ(アピール行動)について】

このところ茨城県内でもコロナが爆発的に感染拡大しております。集会については開催するものの、街頭でのアピール行動については、中止の判断をする可能性があります。デモ開催等についての判断は集会の前に行いますが、デモの可否を含めたご案内は、原発いらない茨城アクション FACEBOOK ページにてご確認ください↓↓↓

★原発いらない茨城アクション

FACEBOOK ページ

https://www.facebook.com/nonukes.ibr.act



※右側のQRコードからページに飛びます。

**STOP!! 東海第二原発の再稼働 いばらき大集会**  
2022年8月27日(土) 13:30 開場12:30  
駿優教育会館 8階音楽ホール  
〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-1-42 TEL.029-227-5552  
参加費無料 \*どなたでもご参加いただけます

日本原発は、2024年9月工事をめざし、【再稼働工事】をすすめています。30キロ圏内には94万人が住んでいます。事故がおきても避難ができないと、水戸地裁も認定。老朽化した原発は早く廃炉にしましょう!!

ひなんはできない!!

13:30~15:30  
\*福島/賛同人の訴え  
\*連帯のごあいさつ(藤田慧さん/ 脱原発弁護団 海渡雄一弁護士)

15:50~16:30  
\*アピール行動(デモ)【雨天決行】  
宮下館入口スタート  
→ 南町自由広場にて解散

【主催】STOP!! 東海第二原発の再稼働いばらき大集会 実行委員会  
<問合せ> 原発いらない茨城アクション実行委員会事務局  
TEL. 029-221-6811(相模) 029-282-3619(相沢) 029-231-4555(元山) 029-251-2806(美郷)

わたしたちは集会に賛同します。集会にお集まりください!!

議長 藤二(茨城県生活協同組合連合会 代表理事兼委員長)  
幹事 功(茨城県生産者協同組合連合会 代表理事兼会長)  
議長 清光(水戸農業協同組合 組合長)  
幹事 山 望(常陸農業協同組合 代表理事兼会長)  
幹事 崎之(磐城つばき野農業協同組合 代表理事兼会長)  
幹事 賢(やまぎ農業協同組合 代表理事兼会長)  
藤田 忍(奥久慈農業組合 組合長)  
倉住 道郎(NPO法人日本有機農業研究会 理事長)  
藤原 成基(東海第二原発地域科学者・技術者の会 代表)  
藤井 謙一郎(茨城大学人文社会科学部教授)  
佐藤 嘉幸(茨城大学人文社会科学部教授)  
伏見 源子(社会福祉法人源徳会 理事長)  
藤井 孝昭(源徳寺 住職/原子力行政を問い直す宗教者の会 住職人)  
大岡 勇治(福島第一原発事故避難者/古河市在住)  
五十嵐 立賢(つば市市長) 上瀬野 彰(龍崎町長) 中島 栄(美浦村長)  
原 浩雄(龍谷市長) 後谷 義雄(五霞町長)

~古くて危険な原発は再稼働させない!!~  
東海第二原発は、1978年11月28日の営業運転開始から起算し、本年11月をもって44年目となる老朽化した原発であり、このような原発を絶対に動かしてはならないのです。  
東海第二原発の再稼働は、この地に今生まれる人も子どもたちの未来にとっても、大きな厄災を抱え込むこととなります。福島第一原発事故で明らかになったように、その厄災とは、避けられない過酷事故の発生と大地と海洋の放射能汚染、人をはじめとする生き物の放射線被ばくであり、結果としての国土の喪失、ふるさと喪失であり、私たちはすべてを失います。  
東海第二原発は高い人口密度を持つ地域に立地し、首都圏に一番近い原発です。ひとたび事故が起これば、被ばくして避難はできない、避難先に長くどどまることもできません。首都は壊滅です。  
周辺30キロ圏内の自治体に求められている有効性ある避難計画の策定は困難を極め、原発を再稼働しないことが最も安全だと、誰もが思っています。首都圏や茨城県に住む人たちが、「STOP!!再稼働」の大きな声を上げていきますように。

STOP!! Restarting Nuclear Power Plant in IBARAKI, Tokai.

**東海第二の工事現場でコロナ感染大拡大 7月以降累計110人に**／原電東海では、新型コロナウイルス感染が拡大。6月はゼロだったものが、7月は62人。8月に入り7日までの1週間だけで48人と爆発的に拡大しています。内訳は、多くは協力会社社員で、再稼働のための工事従事者とみられますが、原電社員が3人、グループ会社社員が3人、入っています。原電は、「発電所の安全管理体制に影響はない」としていますが、原子炉停止中でも使用済核燃料冷却などのための保安要員は必要で、それが不足するような事態は避けなければなりません。そのためには、再稼働のための工事は中断すべきです。  
☆最新の感染状況は ⇒ <http://www.japc.co.jp/news/covid/2022/>

### ◆茨城共同運動 対県交渉を行いました

7月1・4・5日の各日、茨城県庁にて共同運動対県交渉がおこなわれました。さよなら原発いばらきネットワークは原発問題担当として、担当課との交渉にあたりました。

交渉のテーマはともに避難計画問題です。一人あたり2.0㎡で算出していた避難所面積を見直す問題で、計画のほとんどが一からやり直しの状況となっており、県の混乱ぶりが感じられるやりとりとなりました。



住民の避難計画策定は市町村が作成しますが、5km圏内に33施設、30km圏内に596ある医療機関や社会福祉施設の避難計画は、県が各病院に策定を促し支援してつくることになっています。県立中央病院の計画では救急車が140台、福祉車両が83台必要で、車両確保は県に依頼するとなっています。30km圏内で一体何台の救急車や福祉車両が必要になるのか？県は配車ができる体制を考えるまでには至っていません。避難先の病院でベッドが確保されているわけではなく、外来や救急処置室での受入もあり得るとのことです。このような机上の計画で医療を継続しつつ避難をすることはできませんし、患者の命も守れません。

住民避難のためのバスやタクシーを配車するオペレーションシステムが開発され、個別の自治体の避難訓練で使用することがすすめられているようです。避難退域時検査はゲート型モニターを導入しますが、測定や除染に時間がかかり大渋滞の心配が指摘されています。県内外の131自治体、約3000か所に分散する避難所を支える自治体職員の配置も困難とのことでした。

知れば知るほど実効性のある避難計画策定は無理との思いを強くした対県交渉でした。「実効性の確保はムリ、廃炉にして住民を守って!」と、声を上げる必要があります。(中山弘子)

知れば知るほど実効性のある避難計画策定は無理との思いを強くした対県交渉でした。「実効性の確保はムリ、廃炉にして住民を守って!」と、声を上げる必要があります。(中山弘子)

### ◆科学者技術者の会県WT宛「質問書」を提出!!

東海村周辺在住の科学者・技術者が、6月21日、県東海第二原発安全性検討ワーキングチームにたいし、同原発の圧力容器の劣化の問題について質問書を提出。記者会見しました。

「原発いらぬ茨城アクション」が行って来た6市村への要請行動を通じて、「東海村周辺に多く居住している日立製作所や原子力機構などに勤務経験を持ち原発について詳しい方の能力を結集して再稼働の危険性を世論に訴えて行こう」という機運が生まれ、「東海第二原発地域科学者・技術者の会」(服部成雄代表)が結成され、数度の検討会を経て、「中性子照射脆化に係る情報の公開について(質問書)」の提出に至ったものです。



原電は、原子炉圧力容器の鋼板が、運転時に発生する中性子線を受けることによって脆化する(もろくなり割れやすくなる)状態を、試験片を入れて監視することになっています。原電は、「その結果、あと20年の稼働に問題なし」として、県が「安全性の検証を進める」ために行っているワーキングチームに説明しています。

会の「質問書」は、この原電の説明とデータに数々の疑問があり、原電に質してほしいと要望しています。「質問書」の全文(全18頁)と、その要旨は、東海第二訴訟団のHPに掲載されています。

<http://www.t2hairo.net/sankou/kagakushanokai/index.html>

<http://www.t2hairo.net/sankou/kagakushanokai/index.html>



会では、次のテーマを検討中で、さらに多くの科学者・技術者の参加を募っています。

(事務局 川澄敏雄)



**<マンスリー原子力施設>茨城県内でもコロナ感染者急増/ 日本原子力研究開発機構は12日、廃止措置中の東海再処理施設（東海村）に大量に保管されている高レベル放射性廃液のガラス固化処理を再開した。7月末までに5本のガラス固化体を製造した。ガラス固化は昨年8月、約2年ぶりに再開したが、廃液を溶かしたガラスと混ぜる溶融炉の出口付近に、固まったガラスが想定より早く堆積したため、昨年10月から停止。今年5月下旬、遠隔操作による残留ガラス（推定約36キログラム）の除去を終え、炉の運転再開に向け準備していた。（2022年7月31日東京新聞茨城版）**  
 ▶ <https://www.tokyo-np.co.jp/article/192842>

**◆原発いらない茨城アクション 6市村要請**

原発いらない茨城アクション（さよなら原発いばらきネットワーク事務局参加）は、2022年5月19日に6市村要請を行いました。

5月上旬に、日本原電が東海第2原発の視察等で首長らに説明した内容の確認、住民説明会開催を原電に要望して欲しいこと、避難計画策定状況や課題、新安全協定にかかる協議会開催の確認など盛りだくさん。水戸は高橋市長が対応下さいました。高橋市長ならびに各市町村担当課のみなさま、お忙しいところありがとうございます。

自治体ごと回答に違いがあり、常陸太田市とひたちなか市は避難計画に対する考え方が全く違うなど(常陸太田市「避難計画は考え方を示すもの。課題は列記している。これから実効性を高めるべく行動計画を作る」⇔ひたちなか市「避難計画は現時点では基本方針しかなく、課題が解決していないのに避難計画を策定したとはできない=課題を列記したものは避難計画とできない」)、ひとつひとつの質問にその自治体の色が濃く出て、大変勉強になりました。

回答については取りまとめをして、6自治体と茨城アクションで共有すべく、作業を進めています。（花山知宏）



**◆東海第二発電所対話型状況説明会が開催されています**

7月18日の東海村説明会を皮切りに、30キロ圏内の各地で対話型状況説明会が行われています。日本原電からの説明のあと、グループ討議、質疑応答する内容になっています。8月下旬から9月初旬まで行われますので、お申込みがお済みでない方はお早めにご連絡（チラシを同封いたしますのでご参照ください）。

**★さよなら原発いばらきNW ON Youtube フォロー&活用ください**

このところ、オンラインのイベントが続きました。さよなら原発いばらきネットワークは、この間に行ったオンライン学習会の動画をYoutubeで公開しております。この機会にYoutubeアカウントをフォローいただき、学習会の動画もご活用いただけましたら幸いです。

コンテンツは今後も増やしていく予定です。  
<https://www.youtube.com/channel/UCiMMIJG-d-vF83YIDJUdQgA/featured>

※右のQRコードをご利用ください↓↓↓



7/21 茨城県知事定例記者会見「東海第二発電所の再稼働について」／国のエネルギー政策がどう変わるかによるのですが、国がエネルギー政策を変更して、例えば、原発の再稼働は自治体の了解をなしに、国の専権で自治体の同意なしに決めることができるという法律なのか決議なのか通って、そういうことが実施されれば、それは当然それに従わざるを得ませんよね。でも、そういうことでもない限り、今の枠組みの中では、自治体として同意をするには、そういう条件が不可欠だというふうに考えておりますし、そこを否定するような国の政策変更はあまりあり得ないのではないかなというふうにも思っています。

▶発言全体はこちら <https://www.pref.ibaraki.jp/bugai/koho/hodo/press/19press/p220721.html#5>

## <書籍紹介> 日野行介著「調査報道記者—国策の闇を暴く仕事」を読んで

あとがきで、ロシア研究者の尾松亮氏から、「日野さんを見て、調査報道に必要なものは狂気と執念だと感じた」という評価をいただいたとあるが、まさに狂気と執念で、「原発事故後の隠蔽国家・日本の正体を暴き続けた」本だ。

特に第6章『絵に描いた餅』の避難計画は、わたしたちが運動を続けてきた東海第二原発の避難計画について、茨城県がいかにかデタラメで無責任かと言うことを、丹念に調査し追及している。そこで浮かび上がってくるのは、日野さんが「小役人」と切り捨てた茨城県の原子力対策課職員の自己保身しか考えていないとしか思えない姿勢だ。特に日野さんに問い詰められるY課長（現部長）のおろおろぶりは、読みごたえがある。こんないい加減な避難計画に、わたしたちのいのちと暮らしは預けられない。「東海第二原発は廃炉に！」と訴え続けたい。そのための力になる本だと思う。（川澄敬子）

☆8/17には、『原発再稼働葬られた過酷事故の教訓』（集英社新書）が発売予定です。こちらもあわせてお読みください。



## ★オンライン企画のご案内★

<みんなでディスカッション!!>

東海第二原発避難計画 事故がおきたら逃げられる？ここにいてもいいの？

◇9月17日（土）13:30～15:30

問題提起：川澄敏雄さん

（東海第二原発差止訴訟団世話人）

東海第二原発の避難計画はどうなっているの？訴訟団世話人として、各種データをまとめたきた川澄敏雄さんから問題提起し、避難計画問題について皆さんとディスカッションしたいと思います。「3.11のときは〇〇で逃げられなかった」「こういうときはどうなるのか」など疑問や不安、3.11時の経験を出し合い、避難計画で焦点があたっていない問題をあぶりだしたいと思います。かた苦しなく、ざっくばらんにディスカッションしたいと思います。お気軽にご参加ください。

【申込先】 [hanayama@habotaki-lo.jp](mailto:hanayama@habotaki-lo.jp)

※メールの标题を「9.17 みんなでディスカッション参加申込」として送信ください。

## ★会費の未納がある方はお早めに…

前回ニュースで2022年度の会費を請求させていただきました。未納の方はご入金のごお願いいたします。2021年会費が未納のときは、あわせてご入金をお願いします。カンパも募っております。ネットワークの活動継続のためご支援ご協力をお願いします。

<送金先> ゆうちょ銀行

（ゆうちょから）00270-5-86034

（他銀行から）〇二九支店 当座 0086034

さよなら原発いばらきネットワーク 名義

## ●オンライン会員への変更を●

郵送費用等の支出で財政が逼迫しております。ニュース等を郵送でなく、オンライン配信でもお届けすることができます。印刷代と郵送費用が削減でき大変助かります。紙資料がたまって困る、オンラインで充分、という方はぜひオンライン会員への登録変更をお願いいたします。

発行；さよなら原発いばらきネットワーク

東茨城郡茨城町谷田部895

TEL029-219-1031/FAX029-219-1032

HP；<https://t2hairo.jimdo.com/>

TWITTER；t2hairo

FACEBOOK；さよなら原発いばらき

